



## ◇指導方法

引っかき絵を作るときに、普通の釘や割り箸などは、持ちにくい子のために、上記の引っかく道具を作った。

鉛筆のように持っても、掌を上向き、下向きにして握っても、引っかくことが可能なように、幾種類か用意した。

児童の手の動き、大きさに合わせたものを選んで、引っかき絵に取り組ませる。

フォークでは、4本の線が引ける。

金具では、動かす方向によって、太い線や細い線を引くことができる。

①まず、教師がクレヨンで黒く塗った紙を引っかき、下から、いろいろな色が出てくる様子を見せる。縦、横、斜め、曲線など、いろいろな線を引いてみせ、興味をもたせる。

②自分で道具を持って引っかくことのできる子には、「どこから始めようか」「どんな線を引こうか」など、話しかけながら、取り組ませる。

③自分で道具を持って引っかくことの難しい子には、一緒に道具を持ったり、腕を支えたりして、話しかけながら、手の動きを誘導する。

④引っかいてできた線や色について、話したり褒めたりして、更に引っかいてみようという意欲を持たせる。

## ◇指導のねらい

手をいろいろな方向に動かしながら、黒いクレヨンで塗った紙を釘などで引っかき、下からいろいろな色が出てくるのを楽しむ。

## ◇指導の評価

持ちやすい道具を使用させることにより、自分で手を動かして台紙を引っかき、黒い表面の下から出てきた様々な色を見て、喜ぶ児童の姿が見られた。

また、自分で道具を持って引っかくことの難しい子も、道具を手を持たせ、教師が台紙の上に道具の先をつけることで、手を勢い良く動かしたときに、力強い線が引けたり、話しかけながらしばらく待つと、手をずっと動かしたときに線が引け、その線や色を見て喜んだりする姿が見られた。